

西名紘一郎先生への献辞

総合管理学部長 中 宮 光 隆

西名紘一郎先生は、2002（平成14）年4月に本学部に着任され、2005（平成17）年3月に定年でご退職される。この3年間、総合管理学部の教育・研究の発展に大きく貢献され、偉大な足跡を残された。ここに深謝の意を表する次第である。

西名先生のご経歴は実に燦然たるものがある。慶應義塾大学商学部ご卒業とともに、富士銀行に入行され、1979年から同行資金証券部証券第二課長、1986年から同部副部長、翌年から富士銀投資顧問株式会社副社長を歴任された後、1989年に肥後銀行に資金証券部長として迎えられ、翌年併せて肥後銀行取締役、1996年から同行常務取締役に就かれた。本務とは別にいくつかの要職を務めておられたが、実務界から教員を迎えたいとの本学総合管理学部の要請を快くお引き受けいただいた次第である。

いまさら言うまでもないことであるが、総合管理学部が掲げる「七つの総合」という学部理念のなかに「理論と実践の総合」「哲学と実学の総合」がある。この点は、さまざまな人々や組織の協働のもと、課題発見・政策立案・実行・評価という一連の行為を実行することによって課題を解決する、そのための理論とスキルを教育・研究する本学部にとって、きわめて重要であり重視しているところである。したがって、貴重で豊富な実務経験をお持ちの西名先生の識見は本学部における教育・研究にとって不可欠であったし、西名先生にはその役割を十二分に果たしていただいた。

大学運営においても3年間を通じてご活躍いただいた。本学部の就職対策委員として学生の就職のための指導、就職先の開拓、企業との情報交換等に積極的に取り組んでいただいた。就職対策委員会を設置しているのは本学では総合

管理学部だけであるが、長引く不況下にあつて、1学年300名近くの学生数を有する本学部が、他学部や他大学と比較して勝るとも劣らない就職率を維持しているのも、この就職対策委員会がフルに機能して、西名先生のような実務経験をお持ちの教員が、民間企業におけるご経験やそこでの幅広い人脈を生かした就職指導・対策を講じていただいているからである。また、西名先生には総合管理学会の理事として、事務作業のうちもっとも重要な会計・経理をご担当いただき、先生の専門的知識を生かして的確かつ迅速な会計処理をしていただくなど、重要な役割を果たしていただいた。総合管理学会の会計が従来にも増して格段に整備されたのは、まさに西名先生の功績であることは疑いない。

西名先生のご専門分野は、コーポレート・ファイナンス（投資理論）であり、パーソナル・ファイナンス（投資家教育）をも含めたご研究をされているが、近年は「サービス経済」についてもその実態把握と理論的深化に努められている。本誌前号（第11巻1・2合併号）に所収された西名先生のご論文『『サービス経済化』思考 — 地域経済基盤構築への一視点 —』は、その成果であろうと拝察する。ここではサービス理論に関する歴史的系譜を踏まえられたうえで、サービス経済の現状と今後の方向性、とくに副題にもあるのようにサービス産業と地域経済、あるいはサービス産業と他産業との関係に関する西名先生の独創的なご見解が展開されている。

一方、西名先生には授業科目として、各種演習の他に「ビジネス・マネジメント」と「経営戦略論」の講義科目をご担当いただいた。いずれも西名先生のご経歴・ご経験が存分に取り入れられた内容豊かなご講義であるばかりでなく、その専門性からみて高水準の内容であるとお聞きしている。この意味でまさに西名先生には本学・本学部の学生にとって掛け替えのない教育をおこなっていただいた。演習においても物静かな語り口にも拘わらず厳しくもまたやさしくもあるご指導をしていただける先生として、多くの学生が西名先生を慕い集っている。西名先生はこれら学生諸君から大いに尊敬されている。

ご活躍頂いた西名絃一郎先生に、定年とはいえ本学部から去られることは、誠に惜しい気持ちがあるが、致し方ない。西名先生には今後もお元気で充実した日々を送られることを切に念願するものである。これまでのご尽力に重ねて衷心よりお礼を申し上げたい。